

- 2017年を迎えて
- 脳卒中もどき ~頭気にして尻気が付かず~
- 検査部通信 320列CT・Aquilion ONE™(アクイリオンワン)導入
- 広島市国泰寺地域包括支援センターのご紹介
- 退院患者疾患別統計
- 2016 year end party
- 学術活動10月~12月

☎ 当院ではWiFi 無料インターネット接続サービスがご利用いただけます。ご希望の方は受付までお問い合わせください。

2017年を迎えて



医療法人翠清会 理事長 若林伸一

昨年10月に東千田町に病院を移転し、早くも4ヶ月が経ちました。皆様からのお祝いと賞賛のお言葉に、私自身は少々有頂天になった感がありましたが、年越を機に移転モードを終了とし、腰を据えて“建物と共にスタッフの質に満足いただける病院”をモットーに新病院の1年目を築き上げていきたいと思えます。

要の診療体制ですが、脳神経外科と脳神経内科の医師各5名計10名体制で、脳神経外科専門医5名、神経内科専門医2名、血管内治療専門医3名、脳卒中専門医5名によるチーム医療で高度で確実な治療を提供してまいりました。その上、昨年末に須山副院長が血管内治療の専門医から指導医に昇格したことは、診療体制の更なる強化となりました。今年も各学会の専門医を増やし、移転時に導入した最新鋭の320列CT、Biplane DSA、3T MRIを駆使した詳細な画像診断を基に救急医療体制の充実を進め、リハビリスタッフの増員強化を行います。看護師の増員も見込まれますが、昨年11月から私自ら始めた週1回の看護師への教育講演を引き続き継続し、より病態を理解した質の高い看護体制に強化します。

ところで、最近報道を見ていますと、社会のシステムが脆弱で崩壊しつつあることに懸念を抱きます。豊洲問題など最高責任者の都知事が知らずに本当に盛り土をしないことが決められたのでしょうか。繰り返し報道されるストーカーやいじめ問題などでも犠牲者は、助けを求めていたにもかかわらず、警察や教師はなぜ対応しないのでしょうか。非常に腹立たしいと共に、せめて翠清会の組織運営においては、管理者として情報を収集し責任が取れる体制を堅持し、患者さんや職員の救いを求める声に漏れなく対応する組織であり続けたいと思えます。

今年も、翠清会のさらなる飛躍を目指して努力いたしますので、皆様のご助言とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

脳卒中 もどき

～頭気にして尻気が付かず～

脳神経内科 前谷勇太

脳卒中とは脳梗塞や脳出血、くも膜下出血などの総称で、CTやMRIの頭部画像診断で確定診断をします。総じて、突然、身体の片側に脱力や感覚障害、しゃべりにくさ、出血では更に強い頭痛などが起こります。当院には、脳卒中疑いの患者さんがよく受診されますが、逆に脳卒中の偽物にもよく出会います。その一部を今回ご紹介しようと思います。

まずは低血糖です。血液中の糖分が足りず、様々な症状を呈する疾患で、両側でなく片側だけ身体が動かないこと、しゃべれないこともあります。最大の特徴は、何か摂取すればすぐに元に戻ることです（ガソリンのない車のようなものです）。主に糖尿病患者で多いですが、他の病気で栄養不足の患者でも起こります。同様にアルコール多飲者では、飲酒によるビタミン欠乏や飲酒ばかりで食事摂取不良のため、動きが悪くなったり、意識が悪くなったりします。

他には末梢神経障害も多いです。末梢神経とは簡単にいうと、脳や脊髄以外の手足にある神経のことです。その一つに Saturday night palsy（土曜の夜の麻痺）という病気があり、橈骨神経麻痺と呼ばれる手首が垂れてしまう（下垂手：図1）病気の別名です。橈骨神経は手首を持ち上げる筋肉を支配する神経ですが、ちょうど腕枕をした時に同神経が圧迫されやすく、朝目が覚めたらそちら側の手首が垂れていた…というのが典型的です。また、椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症なども多いです（図2）。背骨の変形や、尻もちをついて「いつのまにか骨折」をした人に多く、これらも脊髄が圧迫されて、

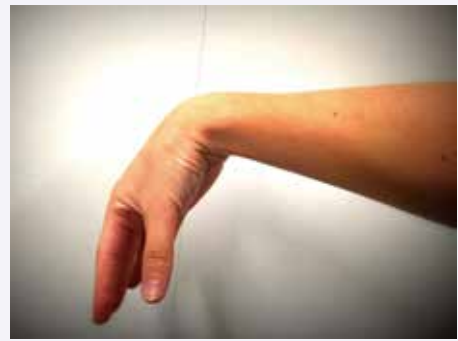


図1：下垂手

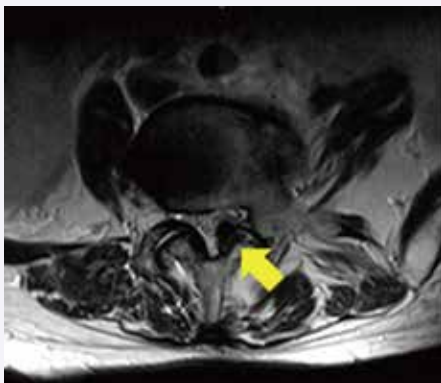


図2：「腰」部MRI-脊髄の圧迫

足の脱力やしびれ感を呈しますが、片方に偏って圧迫されていると片側だけ症状を呈することもあります。これらは全て圧迫による神経障害であるため、圧迫が取れば改善します（正座の時の足のしびれ感がいい例です）が、圧迫が長期間続くと障害が残ることもあり、圧迫の原因特定が重要です。

他にも薬の影響など、書ききれないほど鑑別疾患はありますが、これらはいずれも頭部画像診断では確定できませんが、病歴が分かればすぐ疑えるものがほとんどです。

Aquilion ONE™(アクイリオンワン)導入

検査部 放射線技師長 佐々木大樹

現在の場所で診療を行う様になって、4ヶ月が経とうとしています。当部署としては、移転の前後でMRIの移設に伴い検査予約がとりにくいなど、患者様には大変ご迷惑をお掛けしました。11月の中旬からは移転前と同様MRIは2台体制、CTも1階外来と3階病棟に各1台の2台体制で検査を行っております。

今回は1階に新規導入されたCTのお話をさせていただきます。今回導入したCTは東芝メディカルシステムズの『Aquilion ONE™(アクイリオンワン)』という装置で、2016年4月にフルモデルチェンジし、当院が中四国初導入です。

世界で唯一16cmの幅が1回転で撮影できる装置で、X線を受ける部分が面のような事からArea Detector CT(面検出器CT)と呼ばれています。この検出器の幅が広がった事により、撮影時間の大幅な短縮、さらに被曝の低減も可能になっています。首から股下まで撮影するのに要する時間は僅か5~6秒程度です。被曝の低減に関しては撮影時間の短縮によるものだけでなく『逐次近似応用再構成法(AIDR3D)』が搭載されているため、従来よりも少ない放射線の量で検査をすることができます。

新規導入した『Aquilion ONE™(アクイリオンワン)』を用いて、患者様に負担の少ない、安心・安全な検査を提供出来る様努力していきたくと思います。次回では同じく新規導入された脳血管撮影装置についてお話ししたいと思います。



広島市国泰寺地域包括支援センターのご紹介

保健師 井上かおり、センター長 大植千里

広島市国泰寺地域包括支援センターは、翠清会梶川病院新病院開院に伴い2016年10月、「昭和町」から「東千田町(広大跡地)」に移転しました。広島市の地域包括支援センターは、医療法人や社会福祉法人に委託され、市内に41か所設置されています。当センターは、国泰寺中学校区を担当しています。高齢者のみなさまが住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるように、主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士等が連携し、保健・福祉などさまざまな面から地域での生活を支える相談機関として活動しています。2025年には、4人に1人が後期高齢者(75歳以上)になる超高齢社会を迎える今、高齢者の生活支援や介護予防には、高齢者自身の主体的な取り組みが求められています。高齢者のみなさまが地域で元気に暮らし続けるためには、生活の継続に必要な支援を整備するだけでなく、高齢者一人一人が介護予防に努めていくことも重要となってきました。当センターでは、地域のみなさまと共に、介護予防活動、見守り活動など、高齢になっても暮らしやすい町づくりのお手伝いができるよう努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



退院患者疾患別統計

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
脳血管障害	896	912	865	896	820
虚血性脳血管障害	674	625	614	655	566
脳動脈瘤	70	105	84	112	109
脳内出血	140	155	144	114	128
その他	12	27	23	15	17
頭部外傷	62	71	113	148	164
慢性硬膜下血腫	55	62	51	61	60
脳腫瘍	25	24	22	27	18
その他	392	353	386	403	403
総数	1430	1422	1437	1535	1465

脳外科 手術件数	219	242	207	240	259
t-PA施行件数	17	23	12	27	22

2016 year end party

2016年12月21日(水)にオリエンタルホテル広島にて毎年恒例の医療法人翠清会-year end party-が開催されました。新病院開院後、初めてとなりましたが大いに盛り上がり、素晴らしい忘年会となりました。



学術活動 10月~12月

9/30-10/1

第75回日本脳神経外科学会

症候性頸動脈狭窄症に対して発症後48時間以内に頸動脈ステント留置術を行った13例の検討 脳神経外科部長 須山嘉雄

10/5

Network Meeting

神経内科専門医が考える抗凝固療法 脳神経内科部長 今村栄次

10/8-10/9

第58回全日本病院学会

脳卒中急性期患者における尿道留置カテーテル留置期間短縮への試み 看護部 藤原武志

10/18

PSDカンファレンス in Hiroshima

当院における脳卒中合併症の診療 脳神経内科医長 中森正博

脳神経内科部長 今村栄次(座長)

11/11

第5回認知症クリニカルネットワーク 脳神経内科部長 今村栄次(座長)

11/11-11/12

第59回日本脳循環代謝学会学術集会

もやもや病に対する間接バイパス術後の経時的脳血行動態評価 脳神経外科医長 石井洋介

11/24-11/26

第32回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会

急性期脳梗塞に対する緊急頸動脈ステント留置術を行った19例の検討 脳神経外科部長 須山嘉雄

12/3

第101回日本神経学会中国・四国地方会

特徴的な純粋失読を呈した脳梗塞2症例の検討 脳神経内科 渡邉友彬

12/3

第82回日本脳神経外科学会中国四国支部学術集会

MRIで硬膜動脈静脈瘤が疑われたがDSAで病変を認めなかった8例の検討 脳神経外科医長 蛸子裕輔

12/17

第2回中四国東芝CTユーザー会in四国

New Aquilion ONE NATUREの使用経験 検査部技師長 佐々木大樹

医療法人 翠清会 翠清会梶川病院

TEL : 082-249-6411 FAX : 082-244-7190
〒730-0053 広島市中区東千田町1丁目1-23
<http://www.suiseikai.jp>

《病院理念》

Patient First 「患者さん第一」

ファースト・オピニオン(First Opinion)を提示でき、セカンド・オピニオン(Second Opinion)を求められる病院に!

《基本方針》

- 1 脳の専門病院として24時間、常に質の高い医療を提供します。
- 2 患者さんの権利を尊重します。
- 3 患者さんの安全と安心を確保し、医療事故の予防と対策に努めます。
- 4 急性期から慢性期、在宅までの地域の関連機関と連携を強化します。
- 5 翠清会の職員である誇りを持ち、プロとしての実力を高め、チーム医療に貢献します。

